栗谷津公園

所在地：　富士見市針ヶ谷１丁目　４番地

■公園の種類：　都市公園（街区公園※）

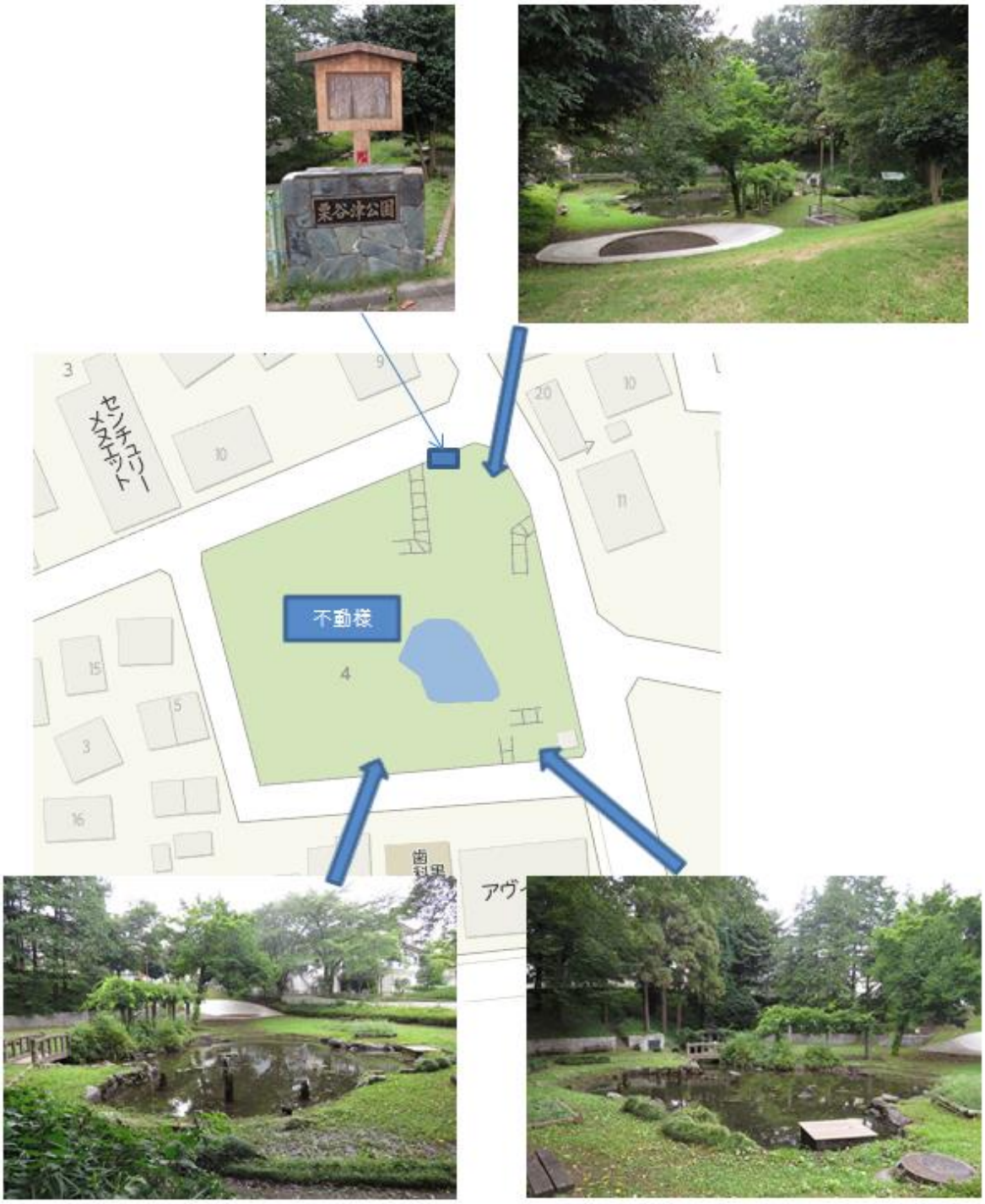
■公園の規模：　面積　２，１３３㎡

※街区公園とは、主として街区内に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、１箇所当たり面積０．２５ｈａを標準として配置される都市公園の区分種類。

■栗谷津公園（針ヶ谷）は、昭和６１年（1986）３月に開設されました。水源に倶利伽羅不動明王（くりからふどうみょうおう）の塔を嘉永（かえい）元年（1848）造立した先人の意をついで、水源を保護するために作られた公園です。

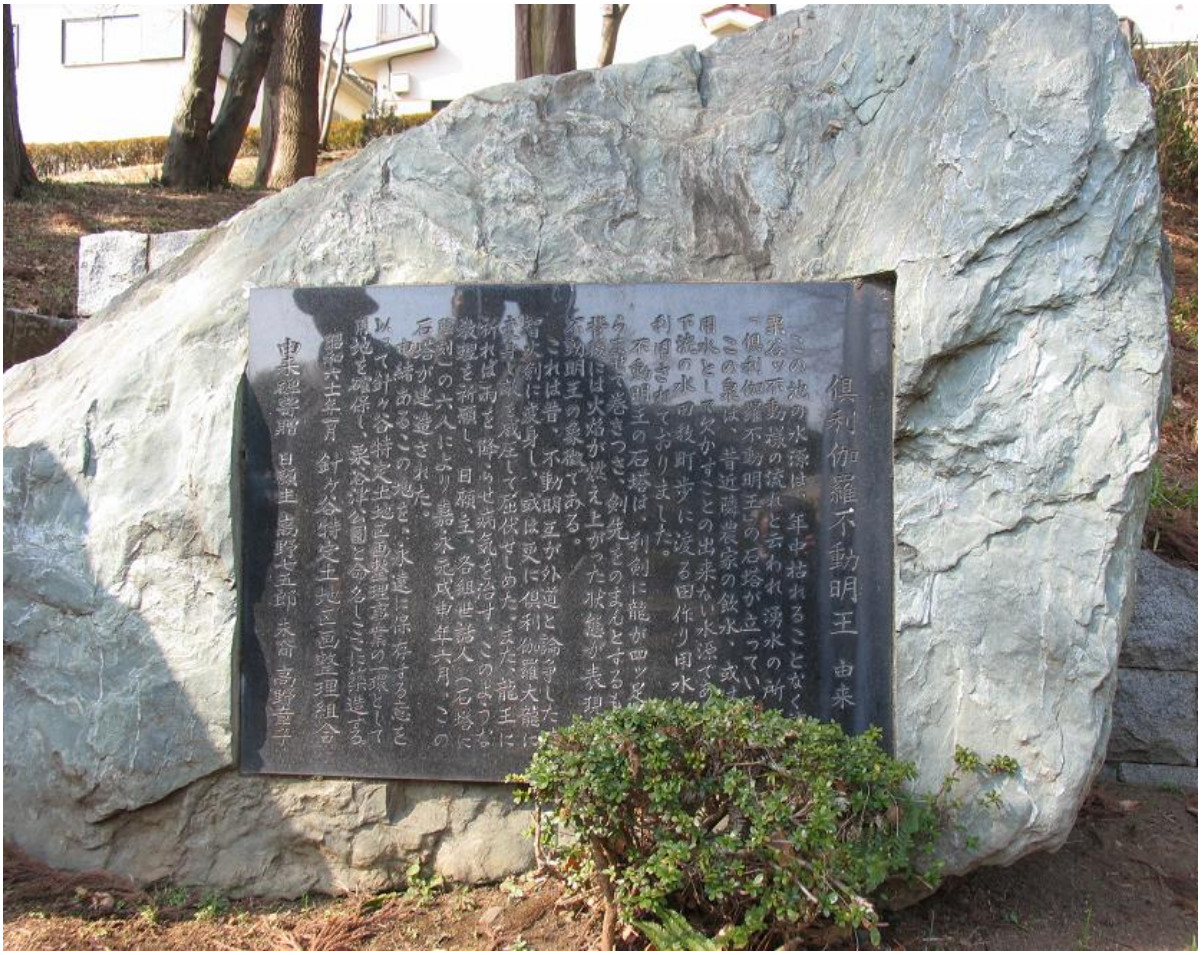
毎分約３８０リットル、平成１８年（2006）１１月調査、市内第一位の湧水量があります。これは一般家庭用のバケツ５４杯にあたります。湧水量の増減は降水量によります。渇水の年には、湧水量の少ない所ほど影響を受け、４分の１程度まで減少しますが、これまでに涸れたことはありません。

■栗谷津公園の全景



■倶利伽羅不動明王（くりからふどうみょうおう）の塔

この石造は、「栗谷津の不動さん」と呼ばれており、言い伝えによれば「昔仏教の代表者、不動明王が、９５種の外道（異教徒）と論争した時、不動明王が智火剣に姿を変えたとたん、相手も智火剣に変身したので、不動明王は恐ろしい倶利伽羅竜王（くりからりゅおう）に化けて、相手の剣を手足で抑えて、飲み込もうとして相手を屈服せしめた」このような伝承を具現化したのが、この倶利伽羅不動明王塔です。嘉永元年（1856）地元の有力者と修験者によって造立されました。竜が雨を降らすという信仰もあって、祈れば雨乞い、治病、除災もかなえてくれるといいます。



【倶利伽羅不動明王の由来】

↑　湧水

↓横上から

■倶利伽羅不動のドジョウ・・・富士見のあゆみ伝説より・・・

　水子栗谷津の沢奥、木々の根本より泉がわき、流れは小川となり飲み水や田の用水となっている。あるとき、一人の者がこの小川からドジョウをたくさん捕え家でナベに入れ、煮て食べようとした。しばらくして煮えたころ合いと思いフタを取ってみたところナベの中にはドジョウの煮えたものではなく、ただ「血」がぐらぐらと煮え返っていたという。その後、この小川の下のドジョウを取る者はいなくなったと伝えられる。
（注）水子栗谷ツ六四八二番地の沢奥に湧き出ている泉のところに倶利伽羅不動の石碑が、嘉永戊申年（一八四八）六月願主世話人六名によって建立されている。

■桜の季節の栗谷津公園

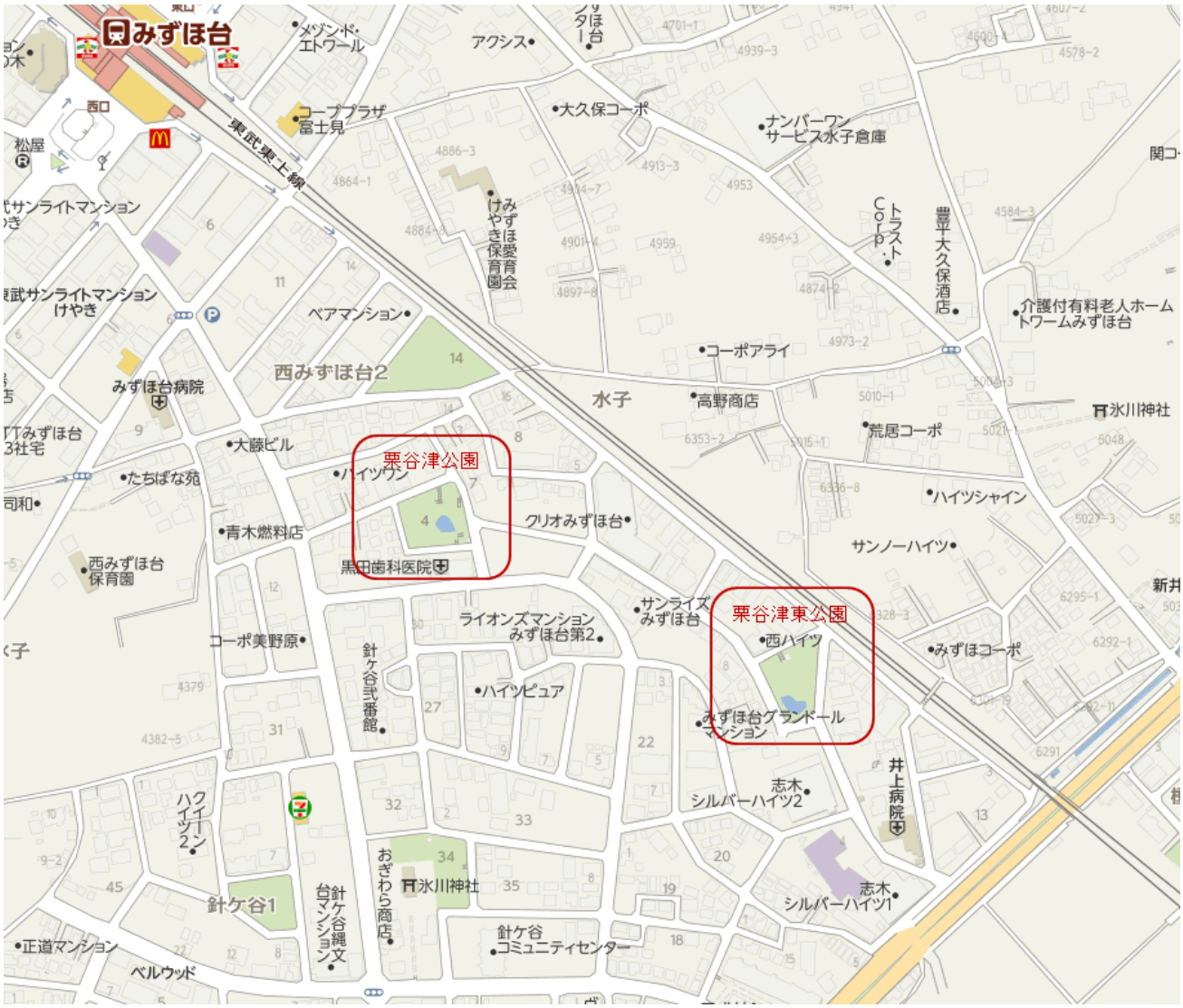
■栗谷津公園の湧水は、栗谷津東公園に流れているとのこと・・・

栗谷津東公園　所在地：　富士見市針ヶ谷１丁目１４番地

公園の種類：　都市公園（街区公園）
公園の規模；　面積　１，８７８㎡

＜栗谷津東公園の全景＞

■栗谷津公園と栗谷津東公園の場所と位置関係



記載日：2014/09/20

この内容は、「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集　第二集」、富士見のあゆみ伝説などから抜粋して、記載しています。